

ようこそ 翁山へ



【翁山（翁峠）】

京より宝寿峰の麓に移り住んだ曾我明監そがのみょうけんが猟師となり、鳥や獣を求め野山を駆け巡っていた。ある日1匹の白き鹿を見つけ射止めようと追いかけて宝寿峰の頂上まで来たところ、白髪の老人が現れ「私は春日大明神にお仕えする翁である」と言い「神仏の有難さを教え、この国の万民だけでなくすべての生き物まで助けようとしてこの地に来た」と近隣の山々の有難さを告げ、白鹿とともに姿を消した。明監は山々を巡ると老人の告げたとおりであり、涙し伏して拜んだ。以来明監が老人（翁）からお告げを受けた山ということで、宝寿峰をのちに「翁山」と呼ぶようになったと「明光寺盛衰記」に記されている。県立御所山自然公園にも指定されており、標高は1,075mで頂上からは360度のパノラマが楽しめる。東北100名山の一つとしても知られる。

【クルマ平沼】（案内図①）

標高640mに位置し、湖表面積0.65K㎡、湖岸線延長が400m、最大深度1.5mの湖沼。水源は養老の泉（湧水）で水温も17℃程度と低く、透明度が高い。



クルマ平沼

【養老の泉】（案内図②）

天然の湧水でクルマ平沼へ注ぐ、一年を通じて水温が6℃。真夏でも手を入れると、十数秒で根を上げるほどである。地元の人には名水として愛されている。（村山の名水30選）



養老の泉

【不老長寿の泉】（案内図③）

黒倉山から稜線を下りきったところにある湧水。不老の泉と長寿の泉があり、コンコンと湧き出している。この水を飲むと長生きすると言われている。

【白髪の泉】

ハリマ小屋から山頂までの間にある、ブナ林から流れ出る湧水。

周辺の見どころ案内

【中沢川砂防施設】

山形県で最初に建設された砂防施設。中沢川は急流であり、常から土砂が下流の赤井川に流れ河床を上げていた。特に大正2年8月には大洪水が発生し、土石流により下流の地域に甚大な被害をもたらした。地区民は再発防止を強く県に申し入れた結果、その熱意が通じ大正5年に河原沢川の砂防工事が着手され、大正9年に工事が完成する。これが山形県における砂防工事の発祥であり翁橋付近に記念の石碑が建立されている。

宮澤砂防記念碑



また、この砂防施設は多年の風雪にも耐え護岸及び堰堤が良好な状態で現存し、今も砂防施設として機能しているとして、平成22年1月15日に下記4堰堤が国の登録有形文化財に登録された。工法としては、川底の侵食を防止する目的で堰堤工を複数設置し、合わせて河岸の侵食防止を目的として、水流の当たる場所及び斜面法尻に護岸工を施工し土砂流出を抑制している。

かわらさわえんてい
河原沢堰堤



ひがしやまえんてい
東山堰堤



くずれじょうりゅうえんてい
崩上流堰堤



くすれかりゅうえんてい
崩下流堰堤



ふきこえしとうげ 【吹越峠】

宮城県との県境（標高 629m）で、付近は平坦地で笹や灌木が生えている。左右が高い山になっているため、偏東風の通り道になっている。寒風沢越とも呼ばれるが文字通り冷えた強風が吹くため、樹木が大きくなり原っぱになっている。現在は東北電力の幹線送電線の鉄塔が建てられている。尾花沢側からここまでは車が通行できるが、ここから宮城県側へは、徒歩による下りとなる。背丈以上に伸びた笹原をかき分け東突端に出ると、眼下に天然記念物の鉄魚が棲息する魚取沼が見えてくる。

翁山頂より黒倉山の稜線を望む

